

島田五空 生誕二五〇年記念

五空百句



石田冲秋選

島田五空について

明治8年4月、能代市生まれ。昭和3年12月没。本名豊三郎。明治27年5月、能代活版所創業。翌年5月、『能代商報』創刊。同じころ俳句に親しみ、新聞『日本』『ホトトギス』に投句した。明治33年3月、正岡子規の協力を得て『俳星』を創刊するなど、印刷、出版、郵便、鉄道という、明治になり出現した新しいメディアを駆使し、中央と地方の文化をリンクさせた。また、秋田県議会議員を務めるなど政財界に活躍した。

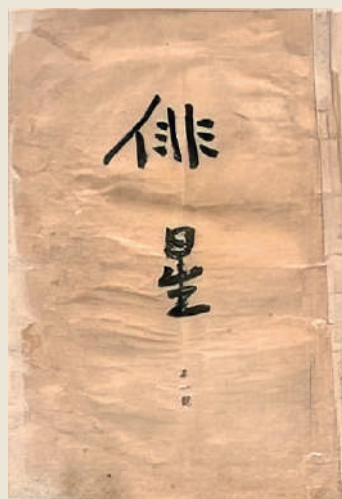
あきた文学資料館 顧問

京極 雅幸



島田 五空

1875年(明治8年)～1928年(昭和3年)



『俳星』創刊号
(能代市立能代図書館蔵)

生誕一五〇年にあたり

2025年(令和7年)は、島田五空生誕一五〇年にあたります。能代市立能代図書館では、記念事業として、秀句アンソロジー『五空百句』の発行を企画しました。

選句は、元「俳星」主幹の石田冲秋さんをお願いし、人物紹介を、あきた文学資料館顧問の京極雅幸さんをお願いしました。さらに、多くの皆様の協賛により冊子を製作することができました。厚く御礼申し上げます。

この冊子を通じて、多くの方々に島田五空の作品を味わっていただくとともに、郷土への理解が一層深まることを願っています。

能代市立能代図書館
指定管理者

株式会社図書館流通センター

島田五空の俳句

五空百句

石田冲秋（元「俳星」主幹）選

▽『五空句集 裘』（昭和五年十月、俳星社）から、元「俳星」主幹の石田冲秋さんに百句を選んでいただきました。

▽俳句は、『五空句集 裘』の掲載順に排列しました。

▽表記は原則として『五空句集 裘』に従いましたが、漢字については常用漢字表にある字体にあらためました。また、適宜、原文にはないルビを付しました。

新年

旭光照波

1 大八洲波の上なる初日かな

2 御降に遠山松の緑かな

3 弓張りて五十の春の力かな

4 忘れろし袖の薬や三ヶ日

5 弓とつて天下に耻ぢず的初め

6 番頭に能書ありけり帳祝

7 水祝覚悟のことに座りけり

8 なごめ剝戸に庖丁を鳴らしけり

9 川風に一月場所の太鼓かな

10 初灸吉野ふみしも思ひ出に

春

鳴雪忌

11 東風吹けば思ふが中に此翁

12 春雪や譲れば譲る道の傘

弓道大会

13 春雨の糸の中なる我矢かな

14 あるがまゝに消ゆるがまゝに残る雪

15 歌を見て人なつかしき弥生かな

16 囀さえずりや日ざし明るき雑木山

17 日の木立風の藪原やぶ囀りぬ

18 清明の嵐となりぬ鯨風にしんなぎ

19 雪の如く李吹すももきちる厩うまやかな

20 釣に行く畑の道や豆の花

夏

悼 佐々木北涯

21 俳諧の仏一基ほとけいつきやつゆの空

22 梅雨あがる弦音つるねとなりぬ朝の風

23 夕立や畳に上る山の蟻

24 滝壺に人ある声やはたゝ神

金沢柵かねざわのさく

25 この丘に馬を立てけむ青嵐

26 旅衣青田の風に吹かれけり

27 麦秋や癩疹病はしかむ子の赤頭巾

28 かしましき市暮れにけり水を打つ

29 水打ての明るさや樹の間の日

30 竹婦人ちくふじん枯木の脚をのせにけり

31 脚に吹く振舞水のあまりかな

32 笛の舟太鼓の舟や浜祭

33 巔いただきに我詩埋めん富士詣

母を失へる我子に

34 鹿の子はその母もゐて戯たわむるゝ

35 酔臥よいふして其角きかくは知らず時鳥ほととぎす

長女ようレン天てんす

36 唇まつに末期まつごの水よほとゝぎす

37 不受ふじゆ不施ふせの一寺存しぬ閑古鳥かんこどり

38 鮎あし焼くや火を煽る風峰よりす

露月庵

39 山風や座に吹かれたる夜の蟬

美代女墓前

40 蟬涼し耳にとゞまる故人の句

秋

41 陸を見ぬ船路幾日や天の川

岩館にて

42 船つけばその妻も来て磯の月

43 月かけて三夜にわたる祭かな

44 わが舟の真上の月となりにけり

45 松ばかり影なす庭や十三夜

46 ほつくと野の花白し初嵐

47 日蓮を市に曳ひき行く野の分わきかな

48 大空に月の小さき野分かな

49 ふと覚さめし耳疑ふや秋の声

露翁追悼

50 寄り慕ふ一つ心や秋の声

51 秋山やわが登る道一筋に

52 山遠やま近おち初秋の雨晴れ易き

53 新涼しんりようや机の前の山一座やまいち

十和田湖

54 新涼や樹の影ひたす波の色

男鹿

55 舟中や指さす山の秋の色

56 鬼貫忌酒に長座の二三人

57 瓜の馬茄子の馬に後れけり

58 踊る中にその人もかと頬冠

59 遠鳴子羊集めの笛も鳴る

60 新そばや老健かに親二人

61 月缺けぬ田の水落つる草の中

62 松黒く岬晴れたり雁の棹

63 雁にさめて又濤音の枕かな

64 水に抛り樹に抛り鳥の渡るかな

65 野の荼毘に人の屯ろや鳥渡る

66 忌み明けや巷の燕すでになし

67 句座の灯の草に及ぶや虫の声

68 絶えである俳一脈や虫の秋
洪取会へ

69 蓑虫や俳三昧の耳の底

70 翠巒の影水にあり河鹿啼く

71 暁の枕に近き河鹿かな

72 せゝらぎに或は遠き河鹿かな

73 多賀の碑へ路一筋や草もみぢ

74 茸狩やかねての場所と独行く

75 から風に乾く田面の落穂かな

冬

76 木枯の池も見え透く木立かな

77 雪掘れば現はるゝ塚かな
一月二十日大雪

78 霜の夜や渡りおくれし雁二つ

79 冬川や舟を叫べば鳥の立つ

80 大寺の影落つ庭の冬日かな

81 鶏^{とり}買^{かひ}に鶏^{とり}唄ふなり小六月

82 筆^{ふで}すてゝ師走^{しそ}の暇^{いとま}もつ身かな

83 鉋屑^{かんなくず}風^{かぜ}がもてくる師走^{しそ}かな

84 帰ります神ねぎらひの祝詞かな

85 神^{かみ}帰^{かへ}りこの里人に事もなし

86 笛^{ふえ}急^{いそ}に霰^{あられ}もおろす燎火^{りょうか}かな

87 一山の塔堂古^{ふる}りぬ冬構

88 鏡中にわが髯^{ひげ}白^{しろ}し裘^{かむころも}

89 妻と我沢庵五十ばかりかな

90 網代^{あじろ}守^{もり}わが影水に老しかな

91 狼^{おおかみ}をのがれて淋し山の月

92 大根引いてこの日和ある山河かな

西遊句録

93 波もなし秋をきはめて海の色

94 山影を机に曳くや暮早き

95 人住みて煙上げたり冬の山

帰庵 十一月二十五日

96 残菊に帰庵の笠を干す日かな

露月翁逝く

97 子規の後三十年や秋の風

98 南瓜^{かぼちゃ}忌とこれより称^よばん秋の風

99 眼中の面貌消えず秋の声

絶筆

十五日夜半、風、鎮守の社を動かし来る

100 枯つたと細り行く身や風の音

[特 別 協 賛]

株式会社 北羽新報社 合資会社 一長堂

[協 賛]

あきた白神農業協同組合

中田建設株式会社 アキモク鉄工株式会社

能代運輸株式会社 秋田銀行能代支店職員一同

能代電設工業株式会社 株式会社 能代資源

秋田洋上風力発電株式会社

秋田県信用組合能代支店 キョーリン製薬グループ工場株式会社

白神森林組合 羽後信用金庫能代支店

えびすや行政書士事務所 司法書士 小嶋肇事務所

島田五空 生誕一五〇年記念

五空百句 石田 冲秋 選

2025年9月20日

能代市立能代図書館

指定管理者 株式会社図書館流通センター

無断転載を禁じます